

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	じらふ街道		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	①調理・工作のしやすい環境設定をしている。	各利用者の強みを活かして、役割分担を想定して取り組んでいる。作業する場所も区切っている。	・視覚的に手順書・工程表、注意点などのマニュアルを作成する。 ・利用者が興味を持ってもらえるような企画の立案をしていく。 ・利用者の特性を把握して引き続き配慮していく。
2	②コミュニケーション支援(STEP・PECS)を積極的に行っている。	STEP(アドラー心理学をベースにした勇気づけプログラム)の取り組みについて、会話でのやり取りができる人が増えたため、困りごとがあった時には、利用者とは話す時間を設けている。また、利用者を信頼し、成功・失敗に限らず長所や能力に焦点を当て、利用者自身のチャレンジを引き出せるような関わりを意識している。 PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の取り組みについて、個別に本人用のブックと絵カードの準備を行い、追加に必要な絵カードがあれば速やかに作成し実践に取り組むことができた。	・レッスン表の作成と次のフェーズに進めていく。 ・パートスタッフにPECS・STEPの勉強会や研修に参加してもらう機会を設ける。 ・トークテーマを設けて、利用者同士で話し合う機会を作る。
3	③集団遊びができる日が増え、積極的に実践することができた。	利用者を活動や特性に応じて活動プログラムを提案することで、デイの企画にも取り入れやすくなった。また、カードゲームやテレビゲームも活用し、利用者同士で協力して取り組む機会が増えた。さらに、再編成して利用する事業所を分けたことで、集団遊びにスタッフからも誘いやすくなったり、個々に交渉するなど工夫する機会にもつながっている。	・事前に計画を立てて、打ち合わせて役割分担などを周知していく。 ・勝ち負けがつかない遊びも取り入れていく。順位に関係なく称賛される、楽しめるような取り組み方やルールも検討する。 ・運動場や体育館、スポーツセンターなどを使用できるか検討し、試験的に使用してみる。 ・他事業所との交流遊びの機会を検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自立課題や遊ぶおもちゃに偏りがある。	軽度発達の利用者が増えており、対応しきれない部分がある。バリエーションを増やしたい。 例：組み立てや生活スキル、学習につながるもの。スタッフで作成するのか、購入するのかの意思決定ができていなかった。 難易度の幅が狭く、軽度発達の利用者向けの課題や遊びの設定ができていなかった。	遊びについては、利用者にもしたい遊びや活動について聞き取りを行い、実施できるよう職員で検討する。 自立課題については、種類別・難易度で整理し、新しい課題の活動を作成・購入を検討する。
2	事業所内の備品の整理整頓が行き届いていない部分があった。	物の場所を決めて整理する。そこから視覚的に何がどこにあるのかを把握できるようにする。収納家具も準備する。	・棚・収納グッズの購入 ・物の置き場所を視覚的に把握できるよう工夫していく。 ・収納場所が決まったらテプラでシールを貼り、物の場所が視覚的にわかりやすいようにする。
3	活動・遊びのルールの設定や周知ができていない部分があった。	何をすればよいのか目的がわかりにくい(利用者視点)遊びや活動だけでなく、トークンのルールなどパートスタッフに事前周知や引継ぎが不足していた。 トークンに取り組む課題もそれぞれの障害状況に合わせて難易度を設定できていなかった。 軽度発達の利用者が増えて対応しきれない部分があった。	・ルールが必要な場面をアセスメントする。 ・スタッフ間でも事前に打ち合わせて共有する。 ・打ち合わせが難しい人に向けて、共有ファイルなど視覚的に伝達できるように準備する。